

教育長 殿

宮城県多賀城高等学校  
校長 小野 敬弘 印

令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 SSH事業の推進
- 2 学習・進路指導の充実
- 3 生徒指導・教育相談体制の充実
- 4 防災・減災・伝災教育の充実
- 5 ICT教育環境の充実

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 教育課程の効果的な運用と改善および学習評価についての研究・検討	B	SSH第2期や大学入試科目の動向を探りながら、継続的に新学習指導要領を分析研究していく。観点別評価を中心とした評価方法や評価基準について、絶えず研究と検討を進めていく。	A	A
	② ベルと同時の授業開始の徹底	B	ベルと同時に授業を開始し、50分の授業時間を確実に確保することを、生徒及び教員に周知徹底する。	A	A
	③ 授業力向上を目指した授業評価と互見授業の実施	B	授業評価の結果を学校全体で共有し、個人および教科単位でその改善に努める。常時互いの授業を見学し、情報を共有できる雰囲気醸成する。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	自由記述での評価コメントはなかったが、概ね3項目全てにおいて「達成している」の評価を得ている。				
生徒指導	① 基本的生活習慣の確立	B	挨拶や服装について全教員で一貫した指導を行うだけでなく、生徒会、委員会を中心に啓発活動を行う。	A	A
	② 自主自立の精神の育成	B	行事の企画・運営について生徒主体で行う。高校生として期待されていることを自覚し、行動できるようにする。	A	A
	③ ルールの遵守と良識ある行動	B	交通ルール等を守る重要性和常識のレベルの向上に努める。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	自転車事故については具体的な場所、原因等を図示するなど事例を挙げて注意喚起をしてもらいたい。				
進路指導	① 進路目標達成に向けた学年ごとの取り組みの充実	B	職員全体で取り組み、バランスの良い業務分担を心がける。生徒・職員にアンケートを実施し、弱みとなっている部分を強化していく。	A	A
	② 生徒の探究的な活動と進路表現の結びつけ	B	生徒の初動を早めに促しつつ、卒業生の探究活動における成功体験を在校生に周知し、SSH探究部と連携していく。	A	A
	③ 自主学習の重要性を意識させる指導及び外部模試の分析と共有	B	生徒にわかりやすい情報の提供を工夫すると共に、自らが弱点を知り、自分の力で解決できるような働きかけを行う。	A	A
	④ 生徒・保護者・教員に対するガイダンスや研修の充実	B	学校全体を通しての生徒向けの講演等が増えているため、より有益な情報提供や思考させる機会を厳選していく。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	学習における生徒の自主性を促すための試みが国公立の合格者の増加につながったように感じる。更なる進路指導体制の充実を期待する。				
特色ある学校づくり	① 防災教育のパイロットスクールとしての防災・減災・伝災の取組と発信	B	本校での探究活動と国内外との交流を継続し、充実させるために、多賀城市との連携締結を機に連携を強化し地域との連携を進めていく。	A	A
	② SSH第2期に向けての特色ある科目の研究	B	コンピテンシーベースでのカリキュラムマネジメントを実践していく。巡検や実習の内容を見直し、評価法についてもさらに検討していく。	A	A
	③ ICTを活用した学習活動	B	ICT機器活用環境の整備と更なる推進を図るために、ICT活用の成果を検討し研修会等の充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	防災教育のパイロットスクール、SSH校として各関係機関との連携の強化に務め、事業の推進・発展に努力されているとの肯定的評価の発言を頂いた。				

3 次年度の課題と改善方策

	次年度の課題	改善方策
①	交通ルールの遵守やマナー指導の更なる推進	未然防止を図り、生徒を観察して情報共有を行い、早期発見に努める。また、自転車通学生のヘルメット着用を推進していく。
②	学校の情報のHP等での発信内容の充実	ホームページの内容の充実を図るために、各行事や活動、保護者宛文書等、速やかにホームページへ掲載する。また、保護者宛文書については生徒のiPad等を使うなどして周知の徹底を図る。
③	生徒の自主性を生かした生徒会活動の活性化	生徒会活動や他校、地域との交流活動、発信活動を活性化を図る。また、学校行事の計画運営について生徒主体の体制を推進していく。

宮城県教育委員会教育長 殿

宮城県多賀城高等学校長 小野 敬弘  
(公印省略)

令和5年度学校評議員に係る諸報告について(報告)

令和6年1月4日付け高第418号で通知のあったこのことについては、下記のとおりです。

記

1 学校評議員(学校関係者評価者)に意見を求めた事項及び学校評議員の主な意見

事項	教育活動の発信について
意見	・多賀城高校の活動内容を見ているとクオリティの高いものと思っているが、周知や発信に苦労しているようである。大学や外部機関をもっと活用することを検討してほしい。 ・ホームページ等の活用以外にも文書を直接配布も併せて確実に伝わるよう期待する。
事項	進路意識の涵養について
意見	・高校生活での経験や通過点から自分の進路を考えられるようになる。生徒たちへの適時、適切なアドバイスを期待する。
事項	生徒の自主性・主体性の高揚について
意見	防災・減災活動においてまち歩き、ボランティア活動においての活動は活発に行われていることは既に承知のことだが、学校行事においても生徒の自主性・主体性の高揚に向けた取組に期待する。

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ(取り組む予定の)事例及び成果(期待される成果)

事例	・学校の教育活動について、大学や研究機関、近隣中学校、自治体等との連携を開拓し、強化している。特に今年度は多賀城市との連携協定締結を実現し行政、地域住民、小中学生との繋がりについて今後も取組を増やしていく。また、成果発表や活動報告を含む発信をホームページをはじめとして行うとともに、次年度に向けてホームページの構成を改良していく。 ・学校行事や教育活動など、コロナ禍前の活動と同様に実施してきた。特に学校行事においては毛計画実施において生徒の自主性を尊重した取組を積極的に展開してきた。次年度は現在行われている行事について教育効果を考え実施時期の検討を行っていく。 ・ICT環境を含む学習環境の整備をさらに進めるとともに、適時の進路情報の提供や面談の実施、進路行事の参加を通して生徒の進路意識を明確化していく。2月に、職員研修として進路指導研修を行った。課題研究や特別活動が進路活動に役立つことに気づかせる指導をしている。
成果	・防災・減災・伝災教育については多賀城市との連携協定を結び、自治体と連携した活動の実施と整理を行い積極的な取組となった。特に小学生との交流では防災キャンプへの協力や古代米の田植え、稲刈りにおいて小学生の活動補助等、積極的に活動した。今後も地域への還元について更なる活動が期待できるとともに発信がしやすくなるを考える。 ・環境整備や進路指導研修により、生徒への進路情報提供や進路面談がよりきめ細かく実施できる。

### 3 その他

#### (1) 学校訪問日

学校評議員 氏名	学校訪問日						訪問回数
	①	②	③	④	⑤	⑥	
大場伸一	6/29						1
千葉まち子	6/29						1
丸山隆							0
和田正春							0
							0
							0
							0
							0
合計	2	0	0	0	0	0	2

※学校訪問日の欄①～⑥には各評議員の学校訪問日の日付(例:5/29)を記入する。(校長が学校評議員のところへ出向いた場合についてもその日付を記入する。)  
※学校評議員会も学校訪問日としてカウントすること。

#### (2) 学校評議員会開催回数

2	回	※学校評議員が一堂に会した回数を記入する。(学校評議員の半数以上の出席があった回数)
---	---	--

#### (3) 決算報告

	令達額	執行額	増減	摘要
旅費	4,224	0	△ 4,224	

#### (4) その他

第2回評議員会についてはスケジュール調整がつかず書面開催とした。また、旅費について辞退を受けて執行はしていない。